参考１

「幼稚園教諭・保育士等の人材育成の基本的な考え方」の構成

１　策定の趣旨

２　現状と課題

３　人材育成の方向性

⑴　目指す保育者の姿

⑵　キャリアステージと必要となる資質・能力

ア　キャリアステージの設定

イ　基盤となる資質・能力の一覧

４　研修の考え方

５　研修体系

１　策定の主旨

本市には、公立・私立の幼稚園、保育園、認定こども園のほか、多くの小規模保育事業所や事業所内保育事業所、さらには認可外保育事業所など、様々な園等が存在し、それぞれが、幼稚園教育要領・保育所保育指針等や、建学の精神などに基づきながら、幼児教育・保育を行っています。

こうした中にあって、どの園等にいる子どもも、いずれは小学校へ入学するという観点や、国において幼稚園教育要領と保育所保育指針等のより一層の整合が図られたことを受け、幼児教育と保育を一体的なものとして捉え、全ての子どもにとって将来につながるよりよい教育と保育を行っていくことが必要となっています。

そのためには、子ども一人一人の特性、発達、内面などを理解した上で、適切な環境を構成し、子どもが自ら環境に関わり自発的に活動する保育を展開できる幼稚園教諭・保育士等の役割が重要となってきます。

本市では平成２８年度から、文部科学省の委託を受け、「幼児教育の推進体制構築事業」の中で、「研修に関する連絡協議会」を設置し、幼稚園教諭・保育士等に対する効果的な研修などの人材育成に関する検討を行ってきました。

また、平成３１年度からは、文部科学省の「幼児教育推進体制の充実・活用強化事業」の中で、「人材育成のための意見交換会」を設置し、保育者に必要な資質・能力の明確化、それに基づいたキャリアステージに応じた人材育成の内容・方法などについて、引き続き検討を進めてきました。

こうしたこれまでの検討を踏まえ、乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期であるとの認識の下、全ての子どもにとって質の高い幼児教育・保育を提供できるよう、「幼稚園教諭・保育士等の人材育成の基本的な考え方」を策定し、幼稚園教諭・保育士等の人材育成に取り組んでいきます。

2　現状と課題

幼稚園教諭・保育士等に対する研修などの人材育成に関する取組は、公立・私立ごとに、または、幼稚園・保育園といった園種ごとに実施されることが多いことに加えて、幼稚園教諭・保育士等に求められる資質・能力やそれに向けたキャリアステージなどが明確になっていないという現状にあります。

また、近年は、子ども一人一人の発達や経験などに大きく差があり、外国にルーツを持つ子どもや特別な支援を要する子どもなどが増加傾向にある中で、これらに対応できる専門的な知識・経験を有する人材が十分に育成できていないなどの課題があります。

さらに、核家族化などにより、乳幼児と触れ合う経験が少ないまま親となる人がいることや、身近な人々から子育てに対する協力や助言を得られにくい状況に置かれている家庭が多いことなど、家庭や地域の教育力の低下が懸念されています。

このように、子どもや家庭を取り巻く社会が複雑化・多様化している状況の中で、幼児教育・保育の中核を担う幼稚園教諭・保育士等が果たす役割はますます重要になっています。

しかしながら、各園等においては、職員ごとに異なる勤務形態となっていることや、余裕のある職員配置となってないことなどから、職員が園外の研修に参加することが困難な状況や、園内においても、職員同士で研鑽する機会や教材研究の方法などが確立されていないといった状況の園も多くあります。

このため、幼稚園教諭・保育士等には、自ら主体的に学び続ける姿勢や、良好な人間関係を築き他者と協働する力、保育を構想・実践するための力などを身に付けるとともに、小学校以降の教育を見据えて、小学校や他の園等との連携にも取り組んでいくことが求められています。

３　人材育成の方向性

これまで挙げてきた現状や課題を踏まえると、幼稚園教諭・保育士等は、公立・私立、幼稚園・保育園等といった所属する園等に関わらず、自らの専門性を発揮しながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に基づいて、子ども一人一人の特性に応じて柔軟に育ちや学びを支えて行くことが求められています。また、保護者や地域住民等の相談に応じ、必要な情報提供や助言を行うなど、家庭や地域における子育て支援に取り組むとともに、小学校以降の学びにつなげていくことのできる幼児教育・保育の展開が必要となってきます。

そうした人材を育成するための仕組みを構築するに当たって、まずは、幼稚園教諭・保育士等が目指すべき保育者の姿を明確にするとともに、各人が、将来どのような保育者を目指すのかをイメージするためキャリアステージを設定し、「基礎形成期」、「成長期」、「発展期」などの各成長段階において必要となる資質・能力を示します。

（１）　目指す保育者の姿

全ての子どもが幼児期の終わりまでに育ってほしい３つの資質・能力とされる「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」を育むことができるよう、次の３つの観点により保育が行える保育者を目指します。

ア　子どもの特性や発達に即した保育

心身の調和のとれた発達の基礎を培うために、子どもの特性や発達過程を理解し、発達に必要な体験等や発達の課題に応じた指導等を行うことなどにより、子どもの特性や発達に即した保育が必要であると考えます。

イ　子どもとの信頼関係を基盤とする保育

子どもが安心感を持ち、いろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねるために、応答的な触れ合いや言葉掛けを適切に行い、子どもの気持ちを受容し共感することなどにより、子どもとの信頼関係を基盤とする保育が必要であると考えます。

ウ　子どもの主体的な活動を引き出す適切な環境構成を行う保育

子どもの主体的な活動を確保するために、環境との関わりが重要であることを踏まえ、計画的に時間、空間、素材、自然、地域、人が相互に関連し合う環境を構成することなどにより、適切な環境構成を行う保育が必要であると考えます。

（２）　キャリアステージと必要となる資質・能力

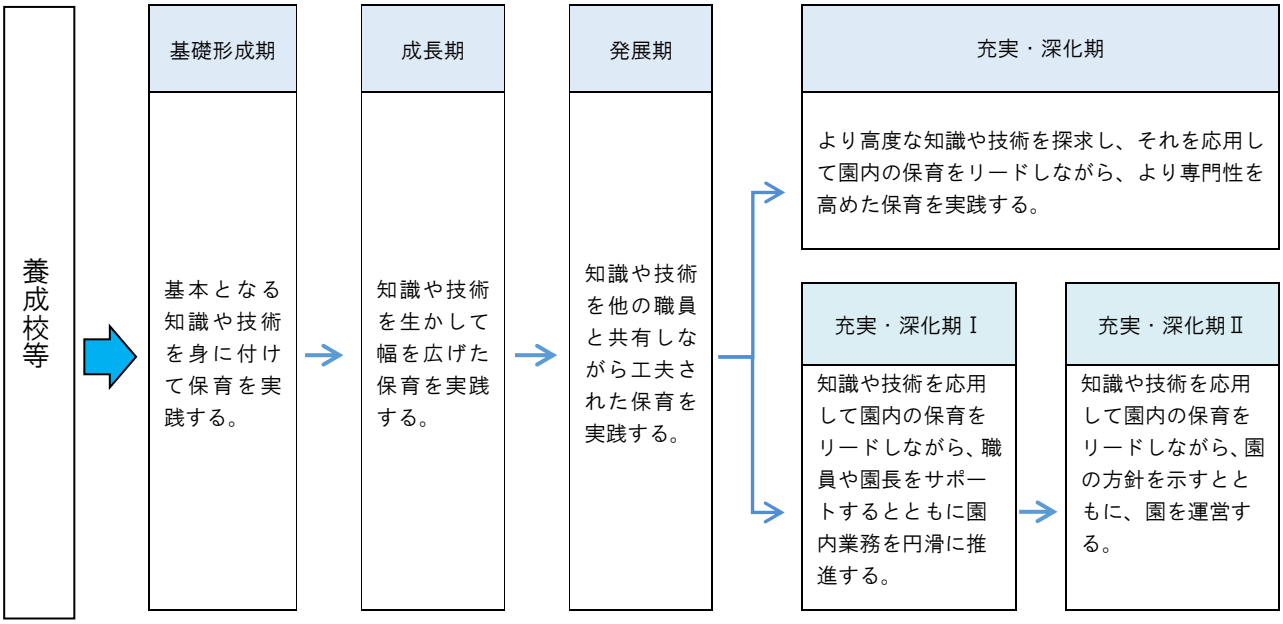
ア　キャリアステージの設定

下の図で示す６つのキャリアステージは、幼稚園教諭・保育士等が、保育者として働き始めた直後から様々な経験や実践を積み重ねながら保育者として成長し深みを増していく中で、各ステージにおいて基盤となる資質・能力を向上させていくことを示しており、自分の将来の姿をイメージするためのものです。

発展期以降においては、より専門的な保育実践力を身に付けるステージと保育実践のみならず園運営を行う力も身に付けるステージの２つのコースを設定しています。

また、全ての幼稚園教諭・保育士等がこうしたステージを順に段階を経て進むわけではないことから、自分の職責に合った力を身に付けるためにはどのステージで学べばよいのかなどを確認するために設定したものです。

【図】



イ　基盤となる資質・能力の一覧

幼稚園教諭・保育士等にとって基盤となる６つの資質・能力を設定し、各キャリアステージや園等における役割に応じて、必要となる力を示すことにより資質・能力の向上を図ります。【下図のとおり。】

【図】

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="3">区分</th><th>基礎形成期</th><th>成長期</th><th>発展期</th><th colspan="2">充実・深化期</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>充実・深化期Ⅰ</th><th>充実・深化期Ⅱ</th></tr>
<tr><th></th><th>クラス担任・学級担任など</th><th></th><th>学年主任、チーフ、主任、副園長など</th><th colspan="2">園長など</th></tr>
<tr><td rowspan="12">キャリアステージの基盤となる資質・能力</td><td rowspan="3">倫理観</td><td colspan="4">組織の一員として園の方針等を理解するとともに、常に法令を遵守しながら行動ができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">園の方針等や法令の遵守について、適切に助言・指導することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">組織の代表者として、常に法令を遵守しながら園の方針を示すことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">責任感</td><td colspan="4">組織の一員として専門性を高めるために絶えず研鑽し役割を果たすことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">役割を果たすことについて、適切に助言・指導することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">組織の代表者として、園運営における役割を果たすことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">協調性</td><td colspan="4">組織の一員として他の職員、保護者、地域住民等と良好な関係を築くことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">職員や保護者、地域住民等との良好な関係づくりについて、適切に助言・指導することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">組織の代表者として、保護者や地域住民等との調整などを図ることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">保育を構想する力</td><td>保育計画の意義を理解した保育の計画を立案することができる。</td><td colspan="3">子ども理解に基づいて環境構成や援助の手立てなどを踏まえた保育の計画を立案することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">保育の計画を立案することについて、適切に助言・指導することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">保育の計画を適切に評価し、改善につなげることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">保育を実践展開する力</td><td>子どもの興味・関心のある遊びを理解した保育を展開することができる。</td><td colspan="3">子どもの主体性を大切にし、子どもの発達に即した保育を展開することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">保育を展開することについて、適切に助言・指導することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">保育の展開を適切に評価し、改善につなげることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">組織を運営する力</td><td>担当するクラス等の運営や園内業務などを遂行することができる。</td><td colspan="3">園全体の動きを視野に入れて、担当するクラスの等の運営や園内業務などを遂行することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">クラス等の運営や園内業務を遂行することについて、適切に助言・指導することができる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">組織の運営を適切に評価し、改善につなげることができる。</td></tr>
</table>